

Japan-Expertプログラム(アグロノミスト養成コース)入学後の学生における標準履修モデル

就職先

入学⇒

			1年			2年			3年			4年			
			10～3月	計	4～9月	10月～3月	計	4～9月	10月～3月	計	4～9月	10月～3月	計	4～9月	
基礎科目	共通科目	総合科目	Japan-Expert ファーストイヤーセミナー 学問の読い	1 1	1	1～3									
		第1外国語 (日本語)	日本語	15											
		第2外国語 (英語)			英語	4									
		体育	体育	1	体育	1	体育	1							
		情報			情報リテラシー(講義) 情報リテラシー(演習) データサイエンス	1 1 2									
		その他	体育(0～1)、芸術(0～1)、初修外国語(0～4)、第1外国語(日本語)(0～4)												
	関連科目			Japan-Expert共通科目、 その他の選択科目 など	1 + 7以上										
専門基礎科目					Japan-Expert総論	必修 2									
					生物資源科学演習										
					生物資源の開発・生産と持続利用、 生物資源としての遺伝子とゲノム 生物資源と環境 生物資源学にみる食品科学・技術 の最前線	選択必修 3 以上									
					資源生物学、化学、物理学 基礎数学、経済学Ⅰ、Ⅱ 細則別表に掲げる他学類開設の専門 導入科目 ※統計学入門については2年次春 学期の開講	講義科目 11 以上	統計学入門	1							
専門科目					生物資源フィールド学実習、生物学 実験、化学実験、数理科学演習 物理学実験☆、地学実験☆	実験・実習・演習 1 以上									
							植物生理学、生態学、植物遺伝学、有機化学、生化学、分子生物学、実用解析Ⅰ、流れの科学Ⅰ、熱・物質移動の科学Ⅰ、土の物理学Ⅰ、生物資源経済学、森林資源経済学、作物生産利用学、資源植物保護学、資源動物学、環境化学、分析化学、材料力学、森林管理学、農林生物類基礎実験、生物資源生産学実習Ⅰ、バイオテクノロジー基礎実験、環境工学基礎実験、統計学基礎演習、農林業政策学基礎演習Aなど(※1)	必須 19 + 10 以上	作物生物学、作物生産システム学、植物育種学、蔬菜生産学、果樹生産利用学、植物病理学、応用動物昆虫学、動物生産学、森林育成学、生物統計学、森林植物学、分子情報制御学、生物化学Ⅰ、環境保全科学、土壌科学、植物栄養学、生物機械工学、木材加工学、農村・農地工学、水圏環境工学、フードシステム論、林業経営体論、農林生物学実験、森林総合実習、応用生命化学コース専門実験、土壌調査法実習、環境工学実験演習Ⅰ、機械・食品工学実験、森林管理学演習、農業経済学実習など(※2)	必須 12 + 6 以上					
							専門語学Ⅰ	2	専門語学Ⅱ(2) JAPAN-Expertアグロノミストインターンシップ(2) 卒業研究Ⅰ(5)☆☆、卒業研究Ⅱ(5)						
			単位数			17程度		37程度		38程度		36程度		10程度	
自主学習			初年次教育の日本語学習に加え、卒業時までCEGLOCの「補講日本語コース」を履修することが望ましい ⇒就業力のある日本語能力獲得のため4年間継続して日本語を学習することを強く推奨する												

- ※1：必須は、学類長が指定する専門科目Ⅰ科目群より選択する。
- ※2：必須は、学類長が指定する専門科目Ⅱ科目群より選択する。
- ※：太字は必修科目を、()内の数字は単位数を表す。
- ※：入学時に配布される履修要覧にある別表(生物資源学類 Japan-Expert(学士)プログラムアグロノミスト養成コース)を必ず確認すること
- ☆：教育職員免許状等の資格取得希望者を優先する場合があるので注意すること。
- ☆☆：卒業研究Ⅰを履修するには、第1外国語(日本語)の15単位を除いて、専門基礎科目の必修科目と選択科目、2年次の専門科目の必修科目の中から30単位を含む80単位以上を履修していること

農業分野での研究者・技術者、国内外での就農・農業指導者、JICA、国際連合食糧農業機関(FAO)等の国際機関で活躍